

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭に近い環境作りとなじみの深い関係を大切に、利用者の自尊心とプライドを保ち、地域の中で豊かで安心した生活が送れることを目的とした理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりの個性を尊重し、家庭的な雰囲気作りに重点を置きながら、全職員が心をひとつにして理念の実践に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域行事に参加したり、法人全体で行う祭りなどの行事に地域住民を招待するなど、地域交流に力を注いでおり、近隣間でのあいさつや声かけも頻繁に行われている。地域の奉仕活動への参加についても検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を受け、職員間で見直しや検討を行い計画や予定をたてるなど、改善に向けて努力されている。		

宮崎県国富町 グループホーム吉祥

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内に4か所ある事業所合同で年4回の協議会を開催し、その際に運営推進会議も開催されている。メンバーは社会福祉協議会・役場・民生委員・区長・家族代表等で毎回活発な意見交換が行われている。4事業所それぞれが現状報告をすることで、多くの気づきや課題が明確になり、サービス向上に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議等で市町村担当者と情報交換を行い、他の地域との連携の取り方などについて相談に乗ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に状況報告や金銭帳の確認等がなされており、要望があれば電話による交流支援も行われている。ホーム便りについては、年に2回、写真等の入った便りが発行されているが、回数や内容について再考の余地がある。	○	来訪の少ない家族や遠方に住む親類にも利用者の状況が詳しく伝わるようホーム便りの発行回数を増やし、内容については家族が何を知りたがっているのかのリサーチもお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に家族が職員と気軽に話ができるよう雰囲気作りに努められている。「苦情・相談ノート」が作られている。	○	苦情に関しては家族もなかなか言い出し難い部分もあるので、“よろず相談”などと名前を変えるなどして家族が何でも話せる体制作りを行い、職員は利用者や家族の言葉の中の本音を見抜く感性をさらに磨いていただけるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1回1名程度の法人内の異動があるが、新しい職員が配属される場合には、最初の5日間を利用者との触れ合いに費やすなど、ダメージを防ぐ配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と職員が1対1で話をする機会を設けたり、メールによる報告や意見交換ができる状況が作られている。研修に関しても多くの職員が受講できるような体制になっており、復命や発表もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(運営推進会議)を中心に町内4つの事業所がネットワークを作り、意見交換を活発に行うなど、サービスの質の向上に向けて努力されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後の利用者に対しては、新しい環境になじめるよう家族とも密に連絡を取り合っているが、入居前に関係作りを持つなどのホーム側の動きが望まれる。	○	サービス開始前にホーム見学に来ていただいたり、職員が家庭訪問を行うなど、本人が新しい環境で安心して生活できるような雰囲気作りをお願いしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者の思いを尊重しながら寄り添い、利用者からは経験豊富な知識や助言をもらうという関係作りに努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの話や日々の会話の中から利用者の意向を聞き取り、随時記録することで個別援助実現へつなげるという方法が取られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	S・O・A・P(看護記録)形式で日々の記録を行うことで、より詳しい利用者の状況を職員全員で共有し、それを基に介護計画の作成が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月～6か月周期で行われている。利用者の状況によっては随時計画を見直し、日々のケース記録をもとに新しい計画が作成されている。	○	家族や本人に介護計画会議等に参加していただき、要望を十分に聞き取り、実情に即した見直しを月に1回くらいの頻度で行っていただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者職員が1対1で向き合えるような個別援助計画が立てられており、その時々々の要望に応じた外出支援が積極的に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ごとのかかりつけ医と連携をとりながらの対応がなされている。協力医による月一回の定期往診も行われている。受診や通院は家族対応が原則であるが、希望に応じて職員による代行支援も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては5～6年前から取り組んでおり、本人や家族の意向を踏まえ、病院関係との連携を密に取りながら、それぞれの希望に沿った支援が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんな場面でも利用者一人ひとりの意思やペースを尊重し、無理のない生活が送れるような支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意思や残存機能を生かした調理・配膳・片づけ等の作業場面が設定されており、さりげない誘導がなされている。利用者と同じ食事を取ることは、現在検討中である。	○	利用者一人ひとりの体調や好みを知るうえでも、職員が利用者と一緒に同じ食事を楽しむ場面作りを前向きに検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援については一般家庭の入浴時間に近づくよう、夕方の時間帯に入浴支援が組み込まれている。週3回の入浴が基本であるが、希望があれば毎日の入浴も可能な体制が取られている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業等の経験者が多いことに注目し、日課の中に畑仕事の時間を組み入れ、それぞれの経験や知恵を発揮できるような場面が作られている。食事や洗濯等の場面の中でも利用者がやれそうな役割が組み込まれ、自発性を養う支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩の際は、自主的に動けるよう見守り中心の支援を行い、買い物やドライブ時には、車いすでも可能な場所を探すなど随所に気配りがなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、夜間のみ施錠で対応されており、一般家庭と同じ状況になっている。		

宮崎県国富町 グループホーム吉祥

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と連携を取りながらの訓練が実施されており、近隣住民の理解と協力の働きかけもきちんとなされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、経営施設全体の栄養管理を行っている栄養士が当ホームの勤務になっていることもあり、利用者個々人の栄養支援は確実になされている。水分摂取についてもチェック表を活用しながら行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造して作られたホームということもあり、常に自分の家で生活をしているという感覚を十分に感じ取れる環境になっている。どの場面を見ても利用者全員が違和感無く生活をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物、好みの物等を持ち込める体制になっており、利用者それぞれが居心地よく過ごせるような配慮がなされている。		

※  は、重点項目。